



市議会だより

かかみがはら

発行
各務原市議会

岐阜県各務原市那加桜町1-69
電話058-383-2001

編集
市議会だより編集委員会



「スポーツげんき祭」でホッケーの体験をする子どもたち（10月8日・市民公園）

9月定例会

平成29年度一般会計決算を認定	2
委員会審査	4
審議結果	7

市政を問う 一般質問

平成29年度決算	8
熱中症対策	9
将来を見据えた地域と学校のあり方	10
各務山土地造成事業	11
市民の声、今号の表紙	12

平成29年度一般会計決算 総額512億770万円を認定 かかみがはら航空宇宙科学博物館リニューアル事業など

平成30年第3回定例会を8月30日から9月28日までの30日間の会期で開催しました。市長から提出された議案は、平成29年度一般会計決算をはじめとする24案件で、委員会、本会議を経て、いずれも原案のとおり認定・可決・同意しました。

平成29年度 一般会計決算

市長提案理由説明要旨

平成29年度は、日本経済において企業収益が増加する中で、雇用・所得環境が改善し、所得の増加が消費や投資の拡大につながるといふ経済の好循環を感じられた年となりました。

そのような中、本市においては、人材確保に課題を抱える企業を支援するため、人材育成や交流を目的とした連携協定を県外の大学と締結するとともに、大学生に市内企業を紹介するバスツアーを開催するなど、雇用確

保に努めました。

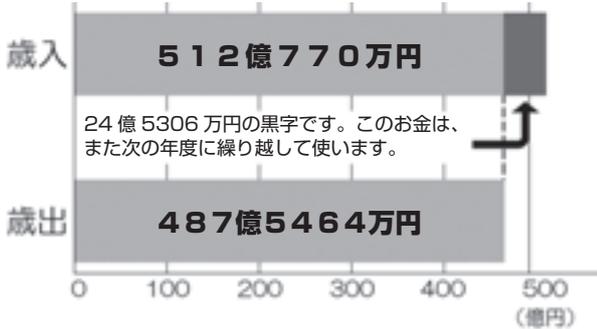
また、市民一人一人にきめ細やかなサービスが求められる中、これまで以上に安心した暮らしができるよう、昨年7月には基幹相談支援センター「すまいる」、教育センター「すてっぷ」を、さらに今年4月には母子健康包括支援センター「クローバー」を開設し、さまざまな課題に対応できる相談支援の体制を整えました。

さらに、近年頻発する地震や豪雨などの災害への備えとして、避難環境の充実を図るとともに、災害対策の拠点となる新庁舎建設事業を着実に推

進してきたところです。

このように「挑戦」とも言える施策を行うとともに、市民生活に寄り添ったサービス提供を着実に進めた1年でした。

平成29年度の歳入・歳出（一般会計）



平成29年度の 主な事業

● 移住定住総合窓口の設置

イオンモール各務原に窓口を設置し、本市の住まい・仕事・魅力に関する情報を発信するとともに、移住定住に関する相談に対応しました。



移住定住総合窓口 かかみがはらオープンクラス

● ふるさと発見事業の実施

児童生徒が本市の歴史や文化の理解を深め、郷土愛を醸成することを目的として「かかみがはら

手帳」などの作成、岐阜弁講座の開催、飛行場100周年記念のイベントなどを実施しました。



本市の歴史・観光・産業がわかる「かかみがはら手帳」

● 基幹相談支援センター「すまいる」の設置

障がいのある方に、ライフステージに応じた切れ目のない支援を行うため、身体・知的・精神障がいに対応した総合的・専門的な相談窓口を設置しました。

● 東西南北軸道路の整備

市東部と西部の広域幹線道路である犬山東町線バイパス、日野岩地大野線の整備を進めました。

主な議案

平成30年度
一般会計補正予算

当面の行政需要に対応するため、歳入歳出予算にそれぞれ3億280万4千円を追加するもので、補正後の予算総額は453億2250万6千円となりました。

歳入

○財政調整基金繰入金 2億9810万4千円

○市債 470万円

歳出の主なもの

○(仮称)城山公園ほかに1整備事業

用地取得に係る補償額を補正するものです。

9195万3千円

○治水対策方針検討事業
集中豪雨や台風による浸水被害の軽減を図るため、総合的な治水対策を検討するものです。

669万円

その他の議案

下水道条例の一部改正

適正な下水道使用料に

改めるため、下水道使用料を2回に分けて引き上げるとともに、完全従量制の導入に伴い、基本使用料を引き下げるものです。

工事請負契約の締結

○クリーンセンター基幹的設備改良工事

設備の老朽化が著しいことから、機能保全と長寿命化を目的とした工事を行うため、日立造船株式会社中部支社と15億1200万円で契約を締結するものです。



クリーンセンター(蘇原宮塚町)

○雄飛ヶ丘第2住宅C棟耐震補強等工事(建築)
市営住宅の耐震補強などを目的とした工事を行

うため、天龍・大竹特定建設工事共同企業体と3億6396万円で契約を締結するものです。

調停の成立

市東部に位置する城山に公園などを整備するため、城山に隣接する土地の売り渡しや建物の撤去などを求めて申し立てた調停について、相手方と土地開発公社・市で協議が整ったため、当該調停を成立させようとするものです。

意見書

今定例会に議員から提出された2つの意見書を可決しました。

可決した意見書は、衆参両議院議長と各関係行政庁に送付しました。

○精神障がい者に対する公共交通機関の運賃割引制度の適用を求める意見書

○厚生年金への地方議会議員の加入を求める意見書

●航空宇宙科学博物館のリニューアル

博物館の展示面積の拡張や展示内容の充実を図り、航空宇宙産業の夢や魅力を伝え、子どもたちへの就業意欲を醸成・喚起する施設としてリニューアルしました。



リニューアルした空宙博

●北清掃センター設備の改良を検討

北清掃センターを安全に操業していくため、適切な延命化の方策を検討しました。

●消防・救急車両の更新

川島分署の消防ポンプ自動車や西部方面消防署の高規格救急自動車を更新しました。

●まちづくり担い手の育成支援

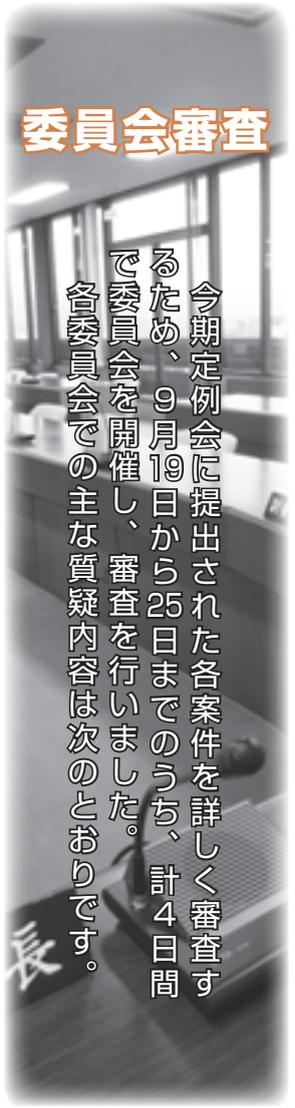
若い世代に対し、まちづくり活動に興味を持ってもらうため、まちづくりに関する学習や交流の場を創出しました。

●教育センター「すてっぷ」の設置

児童生徒や保護者、学校などからのあらゆる相談に迅速に対応し、適切な窓口へつなぐ相談部門と、教職員や保護者、市民などを対象とした研修部門を集約した機関を設置しました。



交流の場として開催した「いっぽカフェ」



委員会審査

今期定例会に提出された各案件を詳しく審査するため、9月19日から25日までのうち、計4日間で委員会を開催し、審査を行いました。各委員会での主な質疑内容は次のとおりです。

総務常任委員会

平成29年度一般会計決算の認定(所管分)

▼問 防犯カメラ設置のモデル地区の場所と設置台数は。

▼答 那加琴が丘町に4基を設置した。

▼問 設置した効果は。

▼答 設置前後の犯罪発生件数にはあまり変化がみられなかった。

しかし、自治会へのアンケートでは、安心感や防犯意識の向上、防犯活動への参加意欲の高まりがみられ、一定の効果はあったと考えられる。この結果を踏まえ、平成31年度から防犯カメラの設置に係る補助制度の実施を検討したい。



那加琴が丘町に設置した防犯カメラ

▼問 不動産売却収入が、前年度より大幅に増額となった理由は。

▼答 鷺沼羽場町地内の旧鷺沼市民サービスセンター跡地1055㎡と、川島小網町地内の土地5174㎡を売却したこと

が主な要因である。

▼問 まちづくり担い手育成支援事業の成果は。

▼答 まちづくり活動に

興味を持つおおむね35歳までの方がグループを組み、実際にまちづくり活動に取り組んだ。

集まる場所の名称を「いっぽカフェ」として4回実施し、延べ参加人数は41人であった。

活動の例としては「地域で子どもの感性を磨く」をテーマに、子どもたちが描いたイラストをコースターにするという企画が立案され、市内の飲食店2店舗で実際にコースターが使用された。

参加者の中には、新たに他の活動に参加する方や、自ら活動を立ち上げようとしている方もいる。

▼問 一次避難所用の組立式仮設トイレの配備状況は。

▼答 今後5年程度で配

備を予定している約80基のうち、平成29年度は18基を配備した。



配備した組立式仮設トイレ

▼問 火災予防のための立ち入り検査で違反処理を実施した件数は。

▼答 市内の防火対象物4198件のうち、自動火災報知設備や屋内消火栓設備、スプリンクラー設備に違反のあった対象物に対し、勧告29件、警告13件、命令1件の行政処分を行った。

経済教育常任委員会

平成29年度一般会計決算の認定(所管分)

▼問 ふれあいバスの利用者数の推移は。

▼答 平成29年度は21万

3930人の利用があった。前年度と比べると、7%増の1万5298人が増加した。

▼問 各務原にんじんの啓発の取り組みは。

▼答 産学官連携協定を締結し、学生が考案した各務原にんじんを使ったお菓子の即売会を実施した。

また、小学校3校で、「いいにんじん」の日である11月24日を中心に、市職員が出前講座を実施したことに加え、小中学校全校で各務原にんじんをふんだんに使ったメニューの給食を提供した。



にんじんを持って「はい、ポーズ」

▼問 教育センター「すてっぷ」に寄せられた主な相談内容は。

▼答 保護者からは不登校のこと、子どもの発達のこと、家族・親子関係に関する相談があった。

▼問 民間委託された放課後児童クラブの状況などのように把握したか。

▼答 受託業者と毎月定例会議を開催し、運営状況の報告を受けている。

また、視察を行うとともに、アンケートの実施や保護者との交流会などで意見を聞いた。

▼問 地育地就業事業の具体的な取り組みは。

▼答 地域で育った子どもたちに地元企業の魅力を伝え、就職してもらうことを目的とした取り組みであり、目玉として、キャリアデザインマガジンを作成した。

それ以外にも、航空機関連企業の見学ツアーや採用力強化セミナーの実施、岐阜工業高校や中部大学との連携協定の締結などを行った。

▼問 キャリアデザインマガジンの狙いは。

▼答 若い世代に手に取ってもらえる冊子として、市内企業で働く、輝く若手社員の魅力を伝えるとともに、市内企業をより知ってもらうコンセプトで作成した。



若者をターゲットにしたキャリアデザインマガジン

民生常任委員会

平成29年度一般会計決算の認定(所管分)

▼問 市税の収納率が96.92%で前年度から0.53ポイント増加した要因は。

▼答 最も大きな要因は、徴収職員のスキルアップ

によるものだと考える。

それに加えて、クレジツト納付の導入など、納付方法の多様化を図ったことも要因と考える。

▼問 かかみがはら寺子屋事業2・0での福祉体験学習の内容と参加者の声は。

▼答 小学生は、車いすや福祉用具に触れる体験学習を行い「福祉用具にはたくさん工夫がしてあり、すごいと思った」という感想があった。

中学生は、体験学習に加え、理学療法士や福祉科に通う高校生との座談会を行い「高齢者の気持ちがよくわかった」「先輩に将来の相談ができて、うれしかった」という感想があった。

▼問 障がい者就労支援コーディネーターの人数と支援内容は。

▼答 社会福祉課に1名配置しており、主に障がい者の就労関係の相談を行っている。

それ以外にも、ハローワークへの同行や、特別

支援学校卒業者が就職した企業への訪問などの支援を行っている。

▼問 平成29年7月に開設した基幹相談支援センターでの障がいに関する相談件数と内容は。

▼答 開設から平成30年3月までの相談件数は3108件で、不安の解消や福祉サービスの利用、家族関係などについての相談が多かった。



障がいに関する相談窓口(基幹相談支援センター)

▼問 生活困窮者自立支援事業の延べ相談件数と相談内容は。

▼答 延べ相談件数は3911件で、主な相談内容は収入や病気、金銭管理や家計相談に関するこ

とであった。

▼問 就労につながった人数は。

▼答 12名であった。

▼問 多子世帯に対する保育料の軽減制度の対象となった人数と金額は。

▼答 平成29年度の制度改正による第2子の無料化に伴い、軽減対象となったのは112人で、1人当たり月額1000円から5000円程度の減額となった。

▼問 大気汚染の環境測定結果は。

▼答 光化学オキシダントについては環境基準を達成できない日があったが、PM2.5については基準値を超えた日はなかった。

▼問 北清掃センター基幹的設備改良事業の内容は。

▼答 建設から15年が経過した北清掃センターのごみ焼却施設を引き続き安全に稼働させるため、設備の現状を把握し、機器の更新内容などの適切な方策を検討した。

平成29年度介護保険事業特別会計決算の認定

▼問 介護度に変化があった人数と内訳は。

▼答 要介護認定者のうち、介護度が下がった方が651人、上がった方が1757人、変化がなかった方が1408人であった。

▼問 一般介護予防事業の内容と参加人数は。

▼答 主なものとして、気軽にできる筋力アップ運動やストレッチなどを行う「らくらく体操ひろば」は5会場で開催し、延べ3692人が参加した。



歌いながら体を動かす「歌って元気塾」

れて運動を行う「歌って元気塾」は3会場で開催し、延べ2185人が参加した。

簡単な読み書きや計算などを行う「脳のパワーアップ教室」は3会場で開催し、1478人が参加、歯科医師や歯科衛生士から口腔ケアの方法を学ぶ「健口教室」は7会場で開催し、78人が参加した。

建設水道常任委員会

平成29年度一般会計決算の認定(所管分)

▼問 自治会要望などに基つき、道路維持補修を行った件数は。

▼答 950件の自治会要望のうち、607件に対応し、電話などでの要望を含めると1694件に対応した。

▼問 日野岩地大野線の整備状況は。

▼答 名鉄の踏切拡幅工事と道路改良工事を行っており、進捗率は62%である。

▼問 公園施設長寿命化計画の概要は。

▼答 公園施設の安全確保や維持管理に要する予算の縮減と平準化を目的として計画を策定した。

161カ所の公園に優先順位を定め、平成39年度未までに順次改築や更新を行っていく。

▼問 百曲第2排水路改良工事の事業効果は。

▼答 那加甥田町の浸水被害を軽減する目的で、那加第二小学校内に排水ポンプを設置した。

今年7月の豪雨では、「すぐ水が引いた」と感謝の言葉もあり、一定の効果があったと考える。



那加第二小学校に設置した排水ポンプ設備

▼問 橋梁長寿命化事業の状況は。

▼答 平成29年度までに市内530橋のうち、527橋の点検を行った。

また、補修が必要な15m以上の29橋のうち、6橋の長寿命化工事を行った。

▼問 建築物耐震診断助成事業と、木造住宅耐震補強助成事業の実績は。

▼答 建築物耐震診断については61件、木造住宅耐震補強については15件の助成を行った。

下水道条例の一部改正

▼問 条例改正の趣旨は。

▼答 下水道事業の安定的かつ継続的な運営のため、使用料を2回に分けて改定するものである。

1回目は平成31年4月からで、平均14・8%、2回目は平成34年4月からで、平均14・5%の値上げとなる。

▼問 平成19年以降に値上げをしなかった理由は。

▼答 平成23年度に使用料の見直しを検討したが、当時は下水道普及率が70

%前半であったことから、普及率や水洗化率の向上を優先したことにより、値上げをするには至らなかった。

▼問 現在、本市の使用料は公共下水道事業を実施している県内19市の中で一番安いのが、改定された場合、県内で何番目になるのか。

▼答 1回目の改定では安い方から5番目となり、2回目の改定では安い方から7番目となる。

▼問 今回の改定で、使用料が値下げになる世帯の数は。

▼答 1回目の改定で値下げとなるのは、対象世帯のうちの約20%である約6300世帯となる。

2回目の改定では、約17%である約5500世帯が値下げとなる。

▼問 2回目の改定を行った平成34年以降、市全体の使用料収入はどれくらい増えるのか。

▼答 試算では、4・2億円の増加と見込んでいる。

審議結果 (9月定例会)

○議員派遣の件(市議会だより編集に関する調査)……………	原案可決・全会一致
○固定資産評価審査委員会委員の選任(森茂氏)……………	原案同意・全会一致
○人権擁護委員候補者の推薦(岩田親典氏)……………	原案同意・全会一致
○人権擁護委員候補者の推薦(村上鐘治氏)……………	原案同意・全会一致
○人権擁護委員候補者の推薦(長谷川繁氏)……………	原案同意・全会一致
○平成29年度一般会計決算の認定……………	原案認定・賛成多数
○平成29年度国民健康保険事業特別会計決算の認定……………	原案認定・全会一致
○平成29年度介護保険事業特別会計決算の認定……………	原案認定・全会一致
○平成29年度後期高齢者医療事業特別会計決算の認定……………	原案認定・賛成多数
○平成29年度下水道事業特別会計決算の認定……………	原案認定・賛成多数
○平成29年度水道事業会計決算の認定……………	原案認定・全会一致
○平成30年度一般会計補正予算(第2号)……………	原案可決・賛成多数
○平成30年度介護保険事業特別会計補正予算(第1号)……………	原案可決・全会一致
○平成30年度後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第1号)……………	原案可決・全会一致
○平成30年度下水道事業特別会計補正予算(第1号)……………	原案可決・全会一致
○職員の給与に関する条例の一部を改正する条例……………	原案可決・全会一致
○個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例……………	原案可決・賛成多数
○自転車等駐車場の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例……………	原案可決・全会一致
○手数料条例の一部を改正する条例……………	原案可決・全会一致
○下水道条例の一部を改正する条例……………	原案可決・賛成多数
○工事請負契約の締結(クリーンセンター基幹的設備改良工事)……………	原案同意・全会一致
○工事請負契約の締結(雄飛ヶ丘第2住宅C棟耐震補強等工事(建築))……………	原案同意・全会一致
○調停の成立……………	原案可決・賛成多数
○平成29年度水道事業会計未処分利益剰余金の処分……………	原案可決・全会一致
○下水道使用料の引き上げをしないことを求める請願……………	不採択・賛成少数
○平成30年度一般会計補正予算(第3号)……………	原案可決・全会一致
○精神障がい者に対する公共交通機関の運賃割引制度の適用を求める意見書……………	原案可決・全会一致
○厚生年金への地方議会議員の加入を求める意見書……………	原案可決・賛成多数
○波多野こうめ議員に適切な対応を求める決議……………	原案可決・賛成多数

熱中症対策

搬送人数は過去最多の144人に

▼問 今年の市内の熱中症搬送者の状況は。

▼答 搬送人数は過去最多の144人で、3週間以上の入院加療が必要な重症が5人、中等症77人、軽症62人となった。

また、住居内で発生した熱中症患者は、全体の40%を占める57人で、そのうちの44人が高齢者であった。

▼問 熱中症防止のため、学校現場ではどのような対応をしているのか。

▼答 午前10時と午後2時に、小中学校と特別支援学校の教室、廊下、運動場、体育館の4力所で気温や湿度とあわせて、「暑さ指数」を測定している。

その値に応じて、運動中止や積極的休養などを児童生徒に伝えるとともに、エアコンの使用などにも配慮している。

▼問 市内で暑さ指数を測る機器を導入し、活用する考えは。

▼答 暑さ指数は、熱中症との相関性が高く、状態を的確に把握できる指標である。

市民の方がさまざまなイベントなどに安心して無理なく参加できるように、携帯用の簡易測定器の効果的な配置や活用方法を検討していく。

▼問 総合運動公園内にミストシャワーを設置す



学校で使用している暑さ指数の測定器

る考えは。

▼答 ミストシャワーは熱中症対策の1つとして有効であると考えており、簡易に設置できることから、総合運動公園内に順次設置していく。

特定健診

▼問 特定健診の受診率向上のための取り組みは。

▼答 未受診者への受診券再送付、啓発チラシの自治会回覧などを行ってきた。

平成26年度からは新たに心電図などの項目を追加、平成27年度からは健診啓発のぼりを設置し、視覚に訴える啓発を実施してきた。

平成28年度からは未受診者に対して電話などで受診を促す個別勧奨も始めた。

▼問 特定健診情報提供事業の取り組みの現状と成果は。

▼答 生活習慣病の治療や予防のため医療機関に

通院している方は、特定健診の受診は必要ないと考える場合が多い。

そのため、医療機関での検査結果を活用し、特定健診を受診したとみなすことができる情報提供事業を実施している。



特定健診の受診をPRするチラシやのぼり

在宅医療・介護 連携推進事業

▼問 本市の在宅医療と介護の提供体制構築の取り組みは。

▼答 在宅医療と介護が夜間や休日、容態急変時にも切れ目なく提供され

る体制が求められている。

その体制構築に向け、本市では医療と介護の専門職から構成される「在宅医療・介護連携推進会議」を設置し、協議を行っている。

▼問 提供体制構築の課題として、何が挙げられるか。

▼答 在宅医療・介護の提供者が連携する体制がまだ整っていないことや、在宅医療を行う医師や訪問介護を行うヘルパーなどの人材不足が課題となっている。

▼問 市民に対し、在宅医療の認知度を上げていく周知方法は。

▼答 これまでも医師会の協力により、在宅医療ガイドブックの作成や、地域包括支援センターとともに、認知症に関する住民向け講話を実施してきた。

今後も、パンフレットの作成や講演会などを行うことにより、地域住民への普及啓発を実施していく。

将来を見据えた地域と学校のあり方

長寿命化計画策定と基金を創設

▼問 学校施設の長寿命化計画の策定状況は。

▼答 長寿命化計画は、維持管理費用の縮減と予算の平準化を図りつつ、求められる機能や性能の確保を目的としており、平成32年度までに策定する予定である。

現在、長寿命化計画と関連する「小中学校の適正規模・適正配置に関する基本計画」の策定の準備を進めている。基本計画の策定にあたり、保護者などの意見を聞きながら、児童生徒にとってより良い学習環境が提供できるよう検討していく。

▼問 学校施設建て替えのため、特定目的の基金を創設する考えは。

▼答 老朽化が進んでいる校舎があることから、学校のあり方を踏まえた上で、建て替えなどが必

要になると考えられる。学校施設の整備には膨大な費用が見込まれることから、早い段階での財源確保を進めるため、基金を創設する方針である。

色覚異常

▼問 色覚検査の実施状況は。

▼答 小学4年生の希望者を対象に検査を行っている。1年生から3年生までについては、保健調査票に色覚に関する項目を追加し、気軽に相談できるように配慮している。

▼問 今後の対応は。

▼答 全ての児童生徒と保護者へ周知を図るとともに、調査票の項目を見直していく。

▼問 色覚異常の子どもでも判別しやすいチョー

一般質問

クを導入する考えは。

▼答 すでに一部の小中学校では使用しているが、全ての子どもにとって黒板の文字が見やすくなるよう、全ての学校に対して使用を勧めていく。

安全意識の醸成

▼問 小中学校ではどのような安全教育がなされているか。

▼答 生活・災害・交通の領域について安全教育を計画的に実施しており、交通安全教室や登下校指導、危機回避能力を育むための「命を守る訓練」

を行っている。

▼問 子どもたちに安全意識の醸成を図る安全教育をどう考えるか。

▼答 命を守る訓練では、さまざまな状況の中で児童生徒が自分の判断で行動する場を設定しており、安全管理の徹底と安全意識の醸成のバランスが保たれた安全教育に努めている。

▼問 家庭や地域と連携した安全教育が必要ではないか。

▼答 各小中学校では、地域の方の協力を得て、地図を使って書き込みを加えながら、防災対策を検討する訓練を実施したり、児童と保護者がAEDの取り扱いを学ぶなど、家庭や地域と連携した安全教育を実施している。

城山の整備

▼問 用地交渉が長期化した理由は。

▼答 城山の景観や環境を保全し、歴史が感じら

れる公園とするため、土地を取得した。

城山一帯を整備するために必要となる北側の土地について、所有する企業と用地交渉を進めてきたが、土地の境界が定まらず交渉が難航していた。そのため、平成25年に調停の申し立てを行い、長い年月を要することになった。

▼問 今後の城山の整備方針は。

▼答 調停の成立で一体的な整備が可能となる。今後は市民の意見を聞きながら、本市の東の玄関口にふさわしい公園整備を行っていく。



稲羽東小学校で行われた交通安全教室



公園として整備予定の城山(鵜沼南町)

各務山土地造成事業

高まる工場用地のニーズに対応

▼問 各務山地区基本構想の今後の見通しをどう考えるか。

▼答 基本構想では、各務山全体を6工区に分割し将来像を作成した。

1工区は事業化されたが、2工区・3工区は採土事業の進み具合を見ながら、社会情勢や採算性を検証し、事業化の検討をしていく。

4工区から6工区は、採土の完了時期が見通せないため、現時点において事業の実現性は極めて低いと判断している。

▼問 工業団地の造成が必要と判断した理由は。

▼答 県が実施した調査では、本市を含む4市9町村からなる航空機関連クラスター地域での工場用地の需要が75ヘクタールと見込まれているほか、市への工場用地取得を希望する声が、ここ2年あ

まりで約40件ほど寄せられており、工場用地の需要が高いと考えている。

▼問 雨水や騒音などの環境への配慮は。

▼答 雨水については、下流域に影響を及ぼさな



各務山の整備に向けた基本構想図

いよう、必要となる容量の調整池を配置する。

また、開発基準や森林法に適合した緩衝緑地を配置することで、騒音対策にも効果があると考えている。

▼問 市民への説明は行うのか。

▼答 基本構想については、実現の確証がない工区を含んだ将来像であるため、説明の予定はない。

道路整備事業に関しては、地権者や地元住民に対し、事業説明会などを開催する。

▼問 工業団地造成のセイルスポイントは。

▼答 交通アクセスが良好なことや地盤が強い地域であることに加え、本市や周辺地域に多様なものづくり産業が集積しているというメリットがある。

▼問 進出が期待される業種は。

▼答 航空機やロボット関連などの次世代産業や本市の産業構造に即した企業立地を期待する。

下水道使用料改定

▼問 市民生活への影響をどう考えるのか。

▼答 下水道事業の安定的かつ継続的な運営のため、使用料の改定が必要と考えるが、平均改定率が32・2%となる今回の改定による市民への影響を考慮し、改定を2回に分けて行うことや、基本使用料に含まれていた20㎡分の基本水量を廃止して基本使用料を低く抑えることとした。

▼問 市民や企業に十分に説明したと考えるか。

▼答 市ウェブサイトに掲載のほか、5月15日号と8月15日号の広報紙で特集を組み、下水道事業の現状や、使用料の改定の必要性などについてご理解いただくため、丁寧にお知らせしてきた。

▼問 赤字補てん(国の基準以上に一般会計から下水道会計に繰り入れて費用を補てんすること)をやめるため、県内の他

の自治体でも使用料改定を行うのか。

▼答 各自治体の判断で行われると考える。

▼問 使用料の値上げにより、浄化槽から下水道への切り替えが遅れるのではないか。

▼答 一概にどちらが高い安いとはいえないが、改定後の下水道使用料と浄化槽の維持管理費用は同程度と考える。

切り替えをしていない要因の多くは、切り替え工事に必要な初期費用によるものと考えている。

	現行	1回目改定 平成31年4月～平成34年4月～		
		1,740円 (20㎡まで)	550円	
基本使用料 (使用水量1mにつき) 従量使用料	0～20	—	75円	90円
	21～50	110円	130円	150円
	51～100	125円	150円	170円
	101～200	135円	160円	185円
	201～	145円	175円	200円

改定後の2カ月単位の使用料体系

市民の声

こんな街がいいな!

～わたしたちの夢・願い～



市民が作り
あげる街に

大佐野町
山口 達也さん

私は行政に関心があり、地元が各務原市であることもあって、各務原市役所のインターンシップに応募し、議会事務局の業務を体験しました。

今回のインターンシップを通して、市議会議員が市民と近い距離で活動していることが改めて分かりました。

また、市議会議員の方へのインタビューを通して、各務原市をよりよくするためには若い世代も含めた市民一人一人が、市政に対して関心を持つことが大切であると感じました。

そのためには、まちづくりミーティングなどに積極的に参加し、市政に対し市民の声を多く届けることで、各務原市が市民一人一人によって作りあげる街になっていけばいいと思います。



市民ミュージカル
ができる街

各務須衛町
丹羽 凜花さん

私は2歳の頃から各務原子ども劇場に入り、たくさんの劇を観るうちに、表現することや踊ることが大好きになりました。

もっとダンスを踊れるようになって、ミュージカルの舞台に立ち感動を与えられる人になりたいと思いました。

私はまだ11歳ですが、ラッキーなことにレッスンを受け、オーディションやコンテストに挑戦し、舞台に立たせてもらっています。

でもそれができなくても、身近な各務原市で市民ミュージカルや市民劇ができればいいなと思います。

子どもからお年寄りまで、一緒になって生の舞台をつくれるような、そんな各務原市だったらみんな地元が楽しく思える気がします。



おもしろい
街にしたい

入会町
武藤 八紘さん

先日、長野県松本市に行く機会がありました。

その際、ホテルの仲居さんと「どこからいらっしゃったの」「岐阜県の各務原からです。あなたはどちらから」「大したところではありません。安曇野の田舎です」「そんなことはないですよ。ワサビが有名な素敵な街ですね」と、こんな会話をしました。

松本市は、松本城を中心に円形の街づくりがされていますが、各務原市は東西に長い街で、西よりも東の方にチェーン店が多く、賑わっているように感じます。

西にある市庁舎を新しく建て替えるので、話題となるような市役所周辺の街づくりとして、屋台村などを併設したら、おもしろい街になるのではないかと思います。

10月8日の体育の日に行われた「スポーツげんき祭」は、どなたでもスポーツに親しむことができるイベントです。軽スポーツ体験では、ストラックアウト(右写真)などを幅広い世代の方々が体験していました。小学生を対象としたスポーツ体験教室では、ホッケーや剣道など14種類のうち、興味のあるスポーツを体験でき、中学校の部活動選びの参考になったと思います。また、グラウンドゴルフ大会やラジオ体操講習



今号の表紙

市議会を見にきませんか?

平成30年12月定例会の日程(予定)

- 11月29日 本会議 開会
- 12月12日・13日 本会議(質疑、代表・一般質問)
- 12月18日・19日 常任委員会
- 12月21日 本会議 閉会

※日程は議事の都合により変更になる場合があります。

市議会だより編集委員会

- 委員長 津田 忠孝
- 副委員長 水野 岳男
- 委員 古川 明美
- 小塚 甫
- 島原 博彦
- 指宿 真弓

座も開催され、シニア世代も無理なくスポーツを楽しんでいました。イベントをきっかけに体を動かす習慣をつけて、市民がより元気で、健康寿命の長い街になると良いですね。



環境保護のため植物インキを使用しています。